

大学英語教育学会 (JACET)

2008 年度 中部支部 定例研究会プログラム

日 時 : 2009 年 2 月 28 日 (土) 14 時 30 分 ~ 17 時 50 分

会 場 : 名城大学 名駅サテライト SIA ビル 13 階 多目的ルーム

(〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-26-8 名古屋駅前 SIA ビル 13 階 TEL (052)-551-1666)

JR 東海「名古屋」駅から、ユニモール地下街 4 番出口を出てすぐ

開会挨拶 14 時 30 分 ~ 14 時 35 分 清水克正 (名古屋学院大学)

個人研究発表 14 時 35 分 ~ 15 時 05 分

司会 村田泰美 (名城大学)

(1) 「英文法のテキスト」が持つ可能性について

森 明智 (名古屋学芸大学)

研究会研究発表 (言語アセスメント研究会)

15 時 05 分 ~ 16 時 05 分

司会 岡戸浩子 (名城大学)

(2) 英語教育と言語アセスメント

小宮富子 (岡崎女子短期大学)

(3) 観光と外国人への言語サービス

河原俊昭 (京都光華女子大学)

講演会 16 時 15 分 ~ 17 時 45 分

司会 塩澤 正 (中部大学)

脳科学と言語習得 : 画像可視化技術を中心とした可能性と課題

木下 徹 (名古屋大学大学院教授)

閉会挨拶 17 時 45 分 ~ 17 時 50 分

木村友保 (名古屋外国語大学)

懇親会 18 時 15 分 ~ 20 時 15 分

司会 吉川 寛 (中京大学)

(会場 頤和園 ホテル・アソシア 20 階)

発表要旨

研究発表

個人研究発表 14時35分～15時05分

(1) 「英文法のテキスト」が持つ可能性について

森 明智（名古屋学芸大学）

日本の大学生の学力低下が指摘されている近年、英文法の習得度の低さもまた、しばしば批判の対象となっている。本発表は、この英文法の学習に関して「日本の大学生自身の『英文法の学習』に関する考え方・視点」を検証しつつ、“task based approach”に基づく授業を実施し、その中で大学生自身の英文法学習への考え方の変化と、「英文法のテキスト」が英語授業において持つ可能性を調査した結果を論ずる。

研究会研究発表（言語アセスメント研究会） 15時05分～16時05分

(2) 英語教育と言語アセスメント

小宮富子（岡崎女子短期大学）

言語アセスメントとは、ヨーロッパで注目されている「言語監査」の方法論を発展させたものであり、社会の言語ニーズにより適合した言語環境や言語対応策を提案しようとする社会言語学的活動である。言語監査が生まれた背景、言語監査の方法論、言語監査と言語アセスメントの相違点などを取り上げるとともに、大学英語教育において、言語アセスメントの視点がどのような教育的意義をもちうるか、適用事例などを挙げつつ、その可能性を取り上げる。

研究会研究発表（言語アセスメント研究会） 15時05分～16時05分

(3) 観光と外国人への言語サービス（言語アセスメント研究会）

河原俊昭（京都光華女子大学）

言語アセスメントの一つとして、京都の観光地において外国人への言語サービスがどのように行われているかを分析・評価して、改善点を提言するための基本的な方法について考察を行う。対象としては、ユネスコによって世界遺産登録された京都にある17の城・寺社が対象となる。分析の視点は、①ホームページ、②パンフレット、③受付の掲示、④境内の標識、⑤その他（音声案内、ガイド案内など）であり、それらの言語種や言語内容の適切性などを分析していく。それらの分析を踏まえて、言語アセスメントという概念の精緻化を試みていく。

講演会 16 時 15 分～17 時 45 分

脳科学と言語習得：画像可視化技術を中心とした可能性と課題

木下 徹（名古屋大学大学院 教授）

講師略歴

昭和 60 年広島大学教育学部助手、昭和 62 年名古屋大学総合言語センター講師、平成 5 年名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻助教授、平成 13 年同教授。PhD（応用言語学、平成 12 年、カリフォルニア大学ロサンゼルス校）。

専門は、評価論、教育工学と第 2 言語習得および脳科学の応用言語学への応用。

『英語の評価論』（大修館書店）、「英語リスニング課題遂行時における認知的負荷に関する母語の影響」（日本教育工学会）他、著書・論文多数。

講演会概要

脳科学、特に脳の高次機能の画像可視化技術を中心として、その第二言語習得論や言語教育への応用の可能性と、課題について解説する。最初に脳科学の言語教育関連分野への応用の歴史を概観し、次いで、関連装置の種類と特徴を、主に、機能的磁気共鳴画像法（fMRI）と近赤外分光法（fNIRS）について解説する。さらに、自身の関係した実際の研究事例を、主として、母語と熟達度の、言語情報処理時の脳血流への影響を中心に紹介する。最後に、技術的問題を含めた、脳科学の応用の可能性と課題についても考察を加える。

懇親会のご案内

名古屋駅隣接のホテル・アソシア、20階、頤和園にて、18時15分より懇親会を行います。会費は4,000円を予定しております。参加ご希望の方は、準備の都合上、2月26日（木）までに、事務局（ishikawa.yuka@nitech.ac.jp）まで電子メールにてお申し込みください。

今年度最後の懇親会です。情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはどうぞご容赦ください。

事務局からのお知らせ

- ☆ 名城大学名駅サテライトは全館禁煙となっております。喫煙はご遠慮ください。
- ☆ プロジェクターとPCの用意はありますが、特殊なケーブルやアプリケーションをお使いの場合は、ご用意をお願いいたします。また、レジュメを配布される方は、50部程度をご持参ください。
- ☆ 当日、第7回中部支部役員会（12:30～14:20）を行います。役員は、同会場の会議室にご参集下さい。

研究会に関するお問い合わせは、JACET中部支部事務局までお願いします。

支部事務局： 名古屋工業大学 石川有香研究室内
ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

定例会会場案内

